

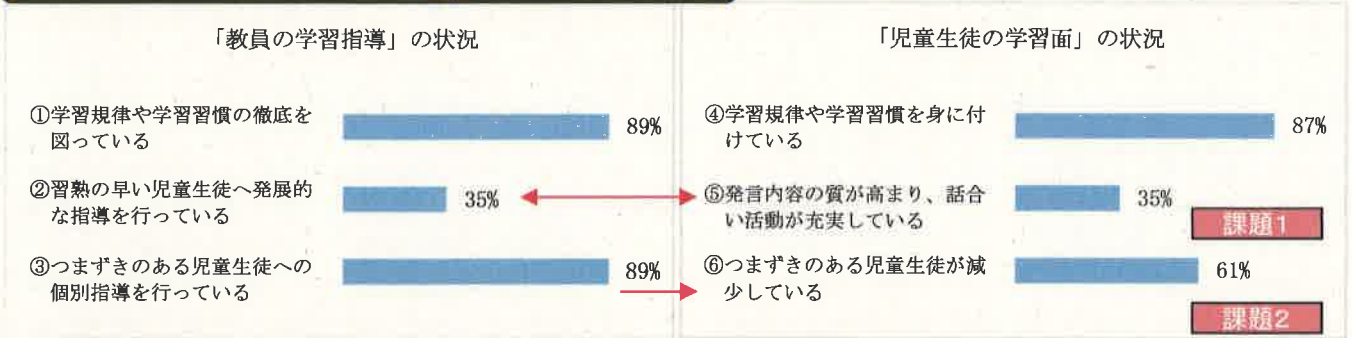
学力向上につながる特配教員の実効性のある活用に向けて

—「ぐんま少人数クラスプロジェクト」に関する調査結果の分析から—

(平成27年12月実施、調査対象校 小学校315校・中学校162校)

1 さくらプラン・わかばプランを活用した学力向上について

学習規律は定着！個に応じた指導の成果はもう一步。



課題1

について

②からは、子ども一人一人の実態に応じた指導が、また⑤からは、見取った実態を生かした活動の設定が、それぞれ十分ではないことが分かります。個の状況を見取り、その状況に応じた学習活動の工夫が求められます。

課題2

について

③と⑥から、指導の割合に対して成果が十分でないことが分かります。丁寧すぎる個別指導は、子どもが自ら考え、表現し、課題を解決する機会を損なってしまうこともあります。個別指導の在り方を見直し、自力解決の場面を意図的に設定することが求められます。

見取りを学習活動に生かす工夫が必要です！

自力解決する場を確保することが必要です！

H28のポイント

見取りを生かした展開と学んだことを実感させる終末を授業に位置付ける！

参考となるA小学校の取組例

一人一人の子どもが授業のねらいを達成し、成果を実感できるよう、個々の見取りを生かす「授業展開モデル」を作成しました。

- ①「展開」に、見取りを基に、一人一人が自分の考えを広げ、深められる活動を位置付ける。
- ②「終末」に、一人一人が学習の成果を実感できる活動を取り入れる。



A小学校長

導入

- 本時のめあてを具体的に提示する。(活動が目的化しないように留意する。)
- 展開につながる個別の課題追究の場を設定し、個別の状況についての見取りを行う。

上記課題1の対策:きめ細かな見取りを生かした活動の実施

○見取りを生かした意図的な集団構成による、意見交流の活性化

- ①見取りの場面
 - ・前時の評価問題
 - ・導入での個別追究 など
- ②集団構成
 - ・教科や単元、題材に応じて2～4名以内
 - ・同程度の習熟度での編制
 - ・異なる習熟度での編制
- ③工夫・配慮事項
 - ・習熟の早いグループが発展的な学習内容について意見を交流している場面で、習熟が遅れ、課題が解決できない児童に対しては、教師がグループの進行役を務めたり個別指導を行ったりすることも考えられる。

(4年生の算数「長方形を組み合わせた図形の面積」の例)

- ・L字型の図形の面積の求め方について、個々の考え方を「どの求め方が最も効率的か」という観点で比較する話し合い活動を取り入れる。
- 自分の考えのよさを確かめたり、考えの幅を広げたりできる。

上記課題2の対策:子どもが成果を実感できる活動の実施

○子どもが自らの力で取り組む振り返り活動の実施

- ・子どもの状況に応じた評価問題の実施(授業内容の定着を自分で確認できる活動)
- ・学習成果のまとめを記述する場の設定(授業で学んだことを自分の言葉でまとめる活動)

展開

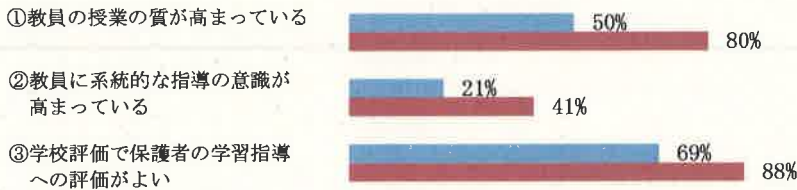
終末

2 学力向上特配を活用した学力向上について(小学校)

「教科担当制」での活用で、授業の質や系統的な指導が充実！

特配の活用目的による成果の比較

■ 少人数指導・TT ■ 教科担当制



教科担当制を目的に特配を活用している学校では、授業の質の向上①、系統性を意識した指導②の点で成果が大きくなっています。

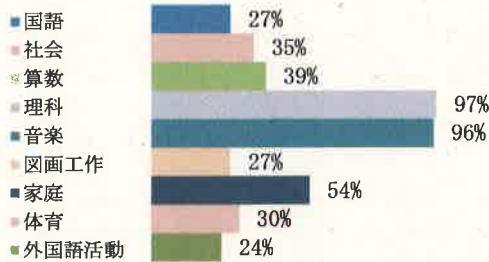
また、保護者からも、学習指導の在り方において高い評価を得ています。

③

成果

「教科担当制」の具体的な取組状況を見てみると…

実施教科の割合



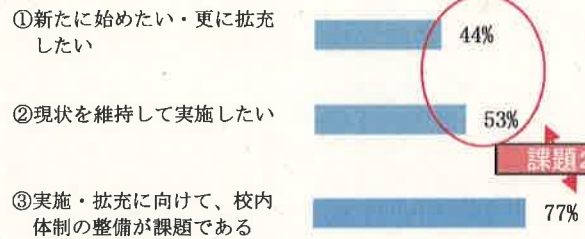
昨年と比較して、国語や算数などの教科についても実施校が増えています。また、実施している学校では、客観的な成果があがっています。【CRTで算数(量と測定) 99→116、(図形) 97→122に上昇など】

今後更に、実施教科を拡充して、教材研究を充実させ、質の高い授業を目指していけるとよいでしょう。

課題1

国語や算数などでの実施に挑戦しましょう。

今後の「教科担当制」の取組について



課題2 について

97%の学校で、「教科担当制」を実施・計画中です。一方、③では、中学校免許の所有状況や授業のコマの組み方、「担任する学級は自分で指導したい」という強い学級担任への意識といった体制の整備を課題と感じている学校が多いことが分かります。

不安や課題を具体的にとらえ、解決しましょう。

H28のポイント

教員の不安や課題を共有・検討・解決し、幅広い教科で教科担当制を実施する！

参考となるB小学校の取組例

上記課題への対策:校長先生の強いリーダーシップと課題への具体的な対応策の検討



B小学校長

○全教科での教科担当制導入に向けて、これまでも行っていた理科や音楽での成果とともに、「小学校の先生として様々な教科の指導力を高めることの必要性」や「指導機会が増える等の教科担当制のメリット」などを伝え、担任の先生方に全校で取り組んでいくことを理解してもらいました。

○また、どうしても担任する学級を自分で指導しないことへの不安などがあったため、研修や職員会議の場で意見を吸い上げるとともに、不安などを解消する具体策(先進校への視察や実施教科の段階的な拡充等)について、運営委員会等で検討し、実行しました。

先生方の不安解消や体制の整備を進め、実際に取り組んでみると様々な成果がありました。



研修の機会に、たくさんの先生方の目で子どもたちを見られるよさを確認できました。複数の先生の授業での見取りから児童理解の幅が広がりました。

教務主任

所有している中学校免許以外の教科の担当として授業することに不安がありましたが、教科を絞って教材研究できたり、授業機会が増えることで指導の仕方を改善できたりして、自分の指導の幅が広がりました。

6年担任教諭

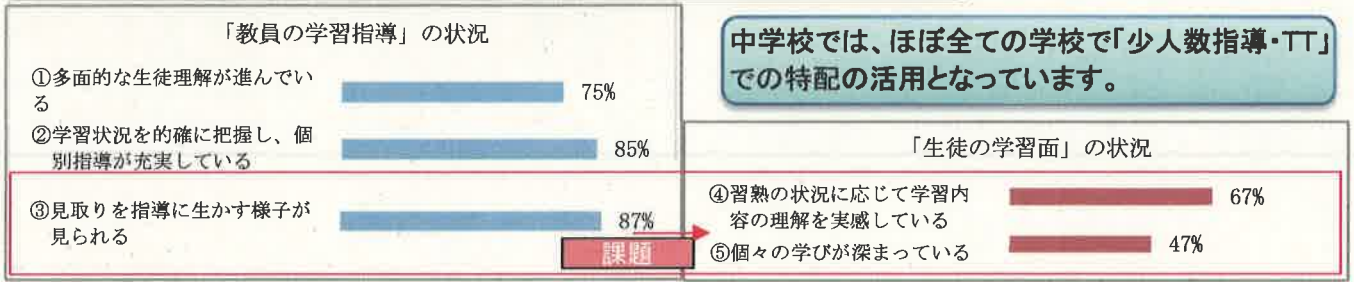
いろいろな先生が教えてくれて楽しいです。授業がおもしろくなりました。授業以外でもたくさんの先生と話ができるようになりました。

6年児童



3 学力向上特配を活用した学力向上について(中学校)

生徒理解、学習の見取りに成果！学力向上の具体策の評価・改善が課題。



成果

個別の状況把握や生徒理解に成果が見られます。また、その見取りを指導に生かそうという意識も高いです。

課題

(1) ③での見取りを指導に生かそうとする意識の高さと、④⑤の成果とのつながりが十分ではありません。様々な状況の生徒が成果を実感できる具体的な授業改善が必要です。

きめ細かな指導の方法を見直しましょう。

(2) 「少人数指導・TT」での活用以外にも、授業時間外での補充的な指導や学校全体で取り組む家庭学習の在り方の検討・企画など、幅広い視点からの学力向上への取組も大切です。

特配活用の幅を広げましょう。

H28のポイント

学びの状況を踏まえた授業づくりと、特配の幅広い活用！

参考となるC中学校の取組例

専門性の高い中学校の授業だからこそ、生徒の発達を考慮すると、個に応じた指導の充実が効果的と考えて、次のことに留意して授業改善を行いました。

- ①見取りを基に習熟度別の少人数指導を充実させる。
- ②つまずきのある生徒への指導のねらいを明確にした重点指導を行う。



TTから習熟度別指導の充実へ

- T1担当に習熟の早い生徒への「発展的な指導」を、T2担当につまずきのある生徒への「補充的な指導」を任せました。
- 振り返りの場面は、自分の言葉で学習成果のまとめをさせるなど、自分の学びを実感できる活動を行うようにしています。

授業時間以外での補充的な指導

- 学習の定着に不安をもつ生徒に対して、放課後に補充的な指導を行う担当を設けました。
- 各教科担当教員と、具体的なつまずきや取り組んだ課題などの情報交換をすることで、適切な課題を準備するなど、次の授業時間の指導にも生かせるようにしています。

4 学力向上コーディネーターの活用について

学力向上は、教員や組織をつなぐ学力向上コーディネーターが鍵!

学力向上コーディネーターは、学習規律の確立をすすめるなど、学力向上に向けた学校全体での取組の推進役となっています。今後は、より組織的・計画的な視点から役割を更に充実させることが期待されます。

組織をつなぎ、目指す授業の具体化を図る

学習状況に応じた指導を充実させるためには、教科や学年の枠を越えた組織の連携が効果的です。学力向上委員会で目標を明確にした学力向上計画を立案し、校内研修で具体的な取組を検討するなど、それぞれの組織の役割につながりをもたせることが大切です。

PDCAサイクルを意識した学力向上への取組

学力向上に向けた全校での取組を更に充実させるには、成果や課題を改善につなげる意識をもつことが効果的です。学力テストの分析結果を年間指導計画に反映させて、定着の弱いところに重点的に指導時間を配分するなど、計画や仕組の在り方へも視点を広げることが大切です。

学力向上コーディネーターの取組状況

